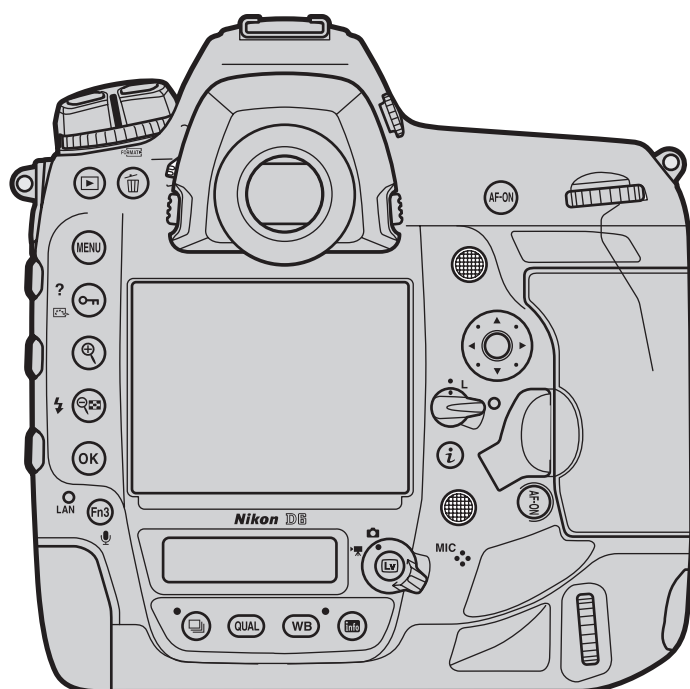


Nikon



D6

Professional 推奨設定ガイド – スポーツ AF 編 – Revision 2.0



Jp

目次

スポーツ撮影の AF の基本設定	4
●AF モードを AF-C に！	4
●AF エリアモードをダイナミック AF (9 点) に！	4
●AF ロックオンの [横切りへの反応] を [2] に！	4
●AF ロックオンの [被写体の動き] は [スムーズ] に！	4
●半押しタイマーの設定を長めに！	5
AF エリアモードのヒント	6
●AF エリアモードの種類	6
●グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) のフォーカスポイント数の設定方法.....	8
スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて	9
●カスタムメニュー [a オートフォーカス] の D6 と D5 の違いについて	9
●a1：AF-C モード時の優先.....	10
●a3：AF ロックオン	11
●a4：AF 点数.....	11
●a5：縦 / 横位置フォーカスポイント切換	12
●a6：半押し AF レンズ駆動.....	13
●a7：シングルポイント AF の捕捉領域.....	14
●a12：オートエリア AF の開始位置設定	14
●a13：フォーカスポイントの引き継ぎ	15
●a14：AF エリアモードの限定	17
●a15：AF モードの制限.....	17
●a16：フォーカスポイント循環選択	17
AF に便利なカスタムボタンの割り当てについて	18
●AF に関する機能を割り当てられるボタン	18
●ボタンに割り当てられる AF に関する機能.....	18
●レンズのフォーカス作動ボタンについて	19
AF 微調節の設定について	20
●手動で微調節値を登録する	20
●自動で微調節値を登録する	21
●登録したレンズを管理する	23

フォーカスポイントのヒント.....	24
●装着レンズ別クロスセンサーの点数.....	24
●AF-S/AF-I テレコンバーター使用時のフォーカスポイント	25
●レンズとテレコンバーターの組み合わせによるオートフォーカスと フォーカスエイド可能なフォーカスポイント	26
撮影競技別の推奨設定	28
●撮影シーン別 AF に関する推奨設定一覧.....	28
●サッカー	29
●体操	30
■ ゆか、新体操	30
■ 平均台	31
■ 跳馬	31
■ つり輪、鉄棒、段違い平行棒	31
●陸上競技	32
■ 短距離走（特定走者を正面から手持ち撮影）	32
■ ハードル走	33
■ 短距離走、ハードル走（複数走者を正面からリモートカメラ撮影）	33
■ マラソン（乗り物から撮影）	34
■ 砲丸投、円盤投、ハンマー投（遠方正面から撮影）	34
■ やり投（遠方正面から撮影）	34
■ 走幅跳、三段跳（正面から撮影）	35
■ 走高跳	35
■ 棒高跳	35
●水泳	36
■ 競泳	36
■ 飛込	37
■ アーティスティックスイミング	37
●卓球	38
●BMX・スケートボード	38

スポーツ撮影の AF の基本設定

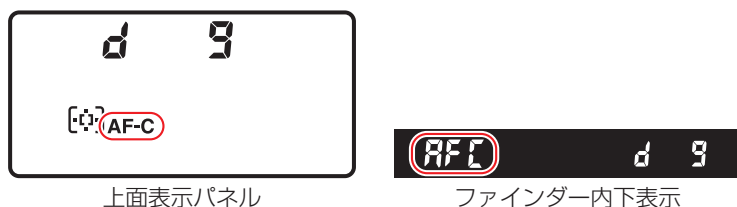
スポーツ撮影をするための AF の基本設定は次の通りです。

AF モード	AF-C
AF エリアモード	ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー	
a1 : AF-C モード時の優先	[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応
	被写体の動き
a15 : AF モードの制限	[AF-C]
c2 : 半押しタイマー	[1 分]

AF モードを AF-C に！

AF-ON ボタンを押している間、またはシャッターボタンを半押ししている間は常にピントを合わせ続けるモードです。

- 次の図は AF モードボタンを押している間の表示です。



AF エリアモードをダイナミック AF (9 点) に！

撮影者が選んだ 1 つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。

- 次の図は AF モードボタンを押している間の表示です。

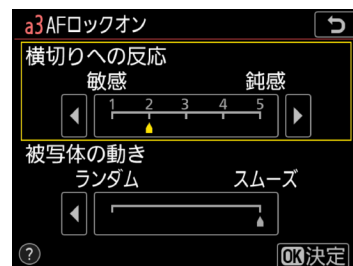


AF ロックオンの [横切りへの反応] を [2] に！

敏感側に設定することで、撮影対象の被写体が頻繁に切り替わる場合にも素早く対応できます。

AF ロックオンの [被写体の動き] は [スムーズ] に！

幅広い被写体に対応できます。



半押しタイマーの設定を長めに！

半押しタイマーの状態がオフのときにオートフォーカス動作をすると、半押しタイマーがオンになるまでのタイムラグが生じるため、オートフォーカスの初動が遅れることがあります。半押しタイマーがオンの状態であれば、オートフォーカス動作の遅れが生じないため、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] で半押しタイマーの時間を長めに設定することをおすすめします。

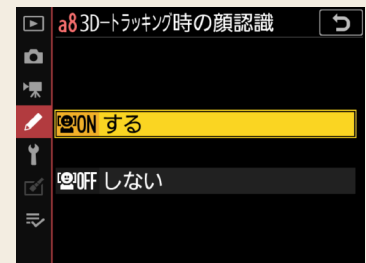
- 半押しタイマーの時間を長めに設定するとバッテリーの消費量も増加します。必要に応じて設定を変更してください。
- たとえばサッカーの試合で、コーナーキックからのゴールシーンを狙っている場合に、コーナーキックを待っている間に半押しタイマーがオフになってしまうことがあります（初期設定の6秒で半押しタイマーがオフになる場合）。このような場合、半押しタイマーの時間を1分以上に設定することをおすすめします。



⚠ 顔認識について

AF エリアモードが 3D- トラッキング、グループエリア AF およびオートエリア AF の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。これらの AF エリアモードを使用する場合は、顔認識を [する] に設定することをおすすめします。

- 設定はそれぞれカスタムメニュー a8 [3D- トラッキング時の顔認識]、a9 [グループエリア AF 時の顔認識]、a11 [オートエリア AF 時の顔認識] で行えます。



⚠ 競技別の推奨設定について

各競技における最適な AF の設定は、[「撮影競技別の推奨設定」\(p.28\)](#) を参照してください。

AF エリアモードのヒント

AF エリアモードの種類

撮影シーンに合った 10 種類の AF エリアモードを選択できます。

AF エリアモード	上面表示パネル	ファインダー内 下表示	ファインダー内 表示（設定時）	ファインダー内 表示（撮影時）
シングルポイント AF	S	S		
ダイナミック AF (9 点)	d 9	d 9		
ダイナミック AF (25 点)	d 25	d 25		
ダイナミック AF (49 点)	d 49	d 49		
ダイナミック AF (105 点)	d 105	d 105		
3D-トラッキング	3d	3d		
グループエリア AF	GrP	GrP		
グループエリア AF (C1)	GrP C1	G C1		
グループエリア AF (C2)	GrP C2	G C2		
オートエリア AF	Auto	Auto		

■ シングルポイント AF

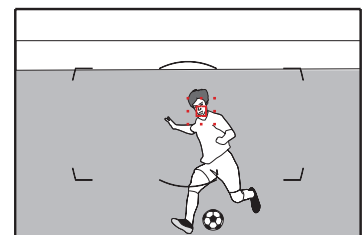
フォーカスポイントを自分で選べます。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。

- カスタムメニュー a7 [シングルポイント AF の捕捉領域] を [広め] に設定すると、被写体が少し外れても周辺の情報を使用して被写体をとらえます (図 14)。

■ ダイナミック AF

AF 開始時、撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。その後、選んだフォーカスポイントから一時的に被写体が外れた場合にも、周辺のピント情報を利用してピント合わせを行う設定です。被写体のコントラストが低く、選んだフォーカスポイントでピントが合いにくい場合や、被写体の動きが激しく、1つのフォーカスポイントだけでは捉え続けることが難しい場合に有効です。

- 撮影時は選んだフォーカスポイントとその周辺のフォーカスポイント（小さな・）のみ表示されますが、実際にはその周辺のフォーカスポイントの 9 点、25 点、49 点または 105 点を使用してピントを合わせます。
- 被写体の占める面積が大きい場合や、被写体の動きが速く複雑な場合は、ダイナミック点数を増やすことが有効です。周辺部のフォーカスポイントを選ぶ場合は、点数を一段増やすことをおすすめします。



■ 3D-トラッキング

被写体の色情報を認識し、シャッターボタンを半押ししている間は1度ピントを合わせた被写体を追いかけて、ピントを合わせ続けます。

- a8 [3D-トラッキング時の顔認識] を [する] に設定して人物の顔を認識した場合は、優先して顔にピントを合わせます。

■ グループエリア AF

撮影者が選んだポイントとその周辺のフォーカスポイント（グループ）のすべてを使ってピント合わせをします。シングルポイント AF よりも広い範囲で、最も手前にある被写体を優先してピントを合わせるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントではとらえにくい被写体を撮影する場合に適しています。

- a9 [グループエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定して人物の顔を認識した場合は、優先して顔にピントを合わせます。

■ グループエリア AF (C1/C2)

グループに含めるフォーカスポイントの縦と横の数を、マルチセレクターで設定できます [\(Q8\)](#)。撮影者が選んだポイントとその周辺のフォーカスポイント（グループ）のすべてを使って、最も手前にある被写体を優先してピント合わせをします。ピントを合わせたい範囲や形状がある程度決まっている被写体の撮影などに適しています。

- a9 [グループエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定して人物の顔を認識した場合は、優先して顔にピントを合わせます。
- フォーカスポイントの数は、カスタムメニュー a10 [グループエリア AF (C1/C2) の設定] でも設定できます。

■ オートエリア AF

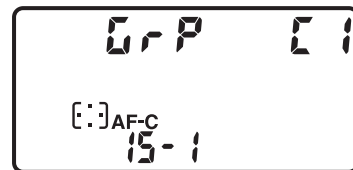
主要被写体と思われる場所のフォーカスポイントをカメラが自動で選択し、ピント合わせを行います。

- a11 [オートエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定して人物の顔を認識した場合は、優先して顔にピントを合わせます。
- AF モードが AF-C の場合にカスタムメニュー a12 [オートエリア AF の開始位置設定] を [する] に設定すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。選んだフォーカスポイントで一度ピント合わせを行った後に、通常のオートエリア AF が動作します [\(Q14\)](#)。

AF エリアモードのヒント

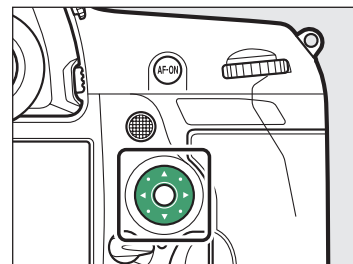
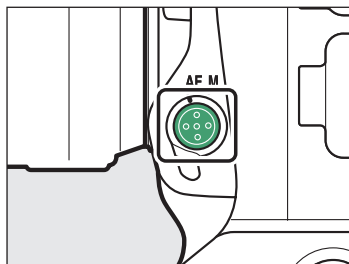
グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) のフォーカスポイント数の設定方法

AF エリアモードがグループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) の場合、グループエリア AF の形状をそれぞれ設定することができます。

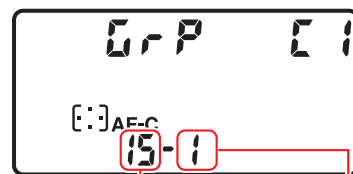
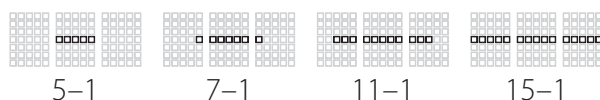
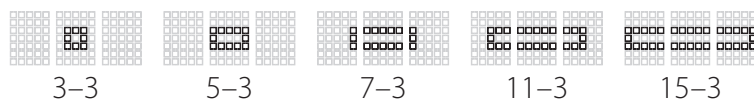


■ AF モードボタンとマルチセレクターを使用する

AF モードボタンを押しながら、マルチセレクターを押すとグループエリア AF の形状を設定できます。

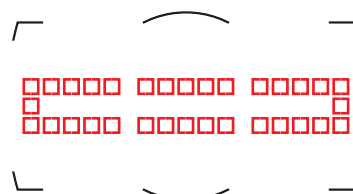


- で縦の範囲の増減、 で横の範囲の増減が可能です。現在の AF エリアの形状を表す数字が上面表示パネルに表示されます。グループエリア AF の形状は次の通りです。



横のフォーカスポイント数
縦のフォーカスポイント数

- ファインダーを見ながらフォーカスポイントの数を変更すると、AF エリアの形状を確認できます。



■ カスタムメニューを使用する

AF エリアの形状はカスタムメニュー a10 [グループエリア AF (C1/C2) の設定] でも設定できます。設定したいグループエリアを選び、マルチセレクターで範囲を設定してください。OK ボタンを押すと範囲が決定されます。



スポーツ撮影の AF に関する カスタムメニューについて

カスタムメニュー [a オートフォーカス] の D6 と D5 の違いについて

D6 のカスタムメニュー [a オートフォーカス] には、D5 と比べて次の差異があります。

	D6
a1	AF-C モード時の優先
a2	AF-S モード時の優先
a3	AF ロックオン
a4	AF 点数
a5	縦 / 横位置フォーカスポイント切換
a6	半押し AF レンズ駆動
a7	シングルポイント AF の捕捉領域
a8	3D-トラッキング時の顔認識
a9	グループエリア AF 時の顔認識
a10	グループエリア AF (C1/C2) の設定
a11	オートエリア AF 時の顔認識
a12	オートエリア AF の開始位置設定
a13	フォーカスポイントの引き継ぎ
a14	AF エリアモードの限定
a15	AF モードの制限
a16	フォーカスポイント循環選択
a17	フォーカスポイント表示の設定
a18	AF 設定時のフォーカスリング操作

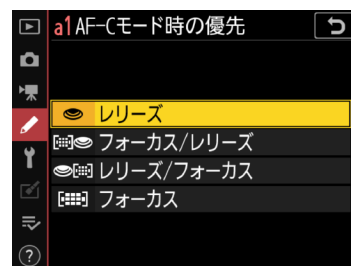
	D5
a1	AF-C モード時の優先
a2	AF-S モード時の優先
a3	AF ロックオン
a4	3D-トラッキングの顔認識
a5	3D-トラッキングの捕捉領域
a6	AF 点数切り換え
a7	縦 / 横位置フォーカス切換
a8	半押し AF レンズ駆動
a9	AF エリアモードの限定
a10	AF モードの制限
a11	フォーカスポイント循環選択
a12	フォーカスポイント表示の設定

- D6 に次のメニューが追加されています。
 - a7 [シングルポイント AF の捕捉領域] [\(📖14\)](#)
 - a9 [グループエリア AF 時の顔認識] [\(📖7\)](#)
 - a10 [グループエリア AF (C1/C2) の設定] [\(📖8\)](#)
 - a11 [オートエリア AF 時の顔認識] [\(📖7\)](#)
 - a12 [オートエリア AF の開始位置設定] [\(📖14\)](#)
 - a13 [フォーカスポイントの引き継ぎ] [\(📖15\)](#)
 - a18 [AF 設定時のフォーカスリング操作]
- D5 での a6 [AF 点数切り換え] の名称が a4 [AF 点数] [\(📖11\)](#) に変更になりました。カメラのフォーカスポイント数の変更にともない、設定できる項目も変更されています。
- D5 での a7 [縦 / 横位置フォーカス切換] の名称が a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] [\(📖12\)](#) に変更になりました。
- D5 での a5 [3D-トラッキングの捕捉領域] が非対応になりました。

スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a1 : AF-C モード時の優先

ピントの状態とレリーズのタイミングのどちらを優先するかを設定できます。



シャッターボタンを
全押しした時



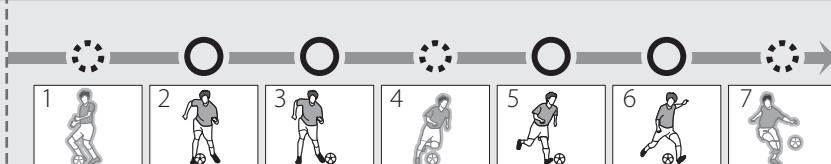
⦿ ピントが合っていない状態

○ ピントが合っている状態

□ 撮影できた画像（左上の数字はコマ数を表しています）

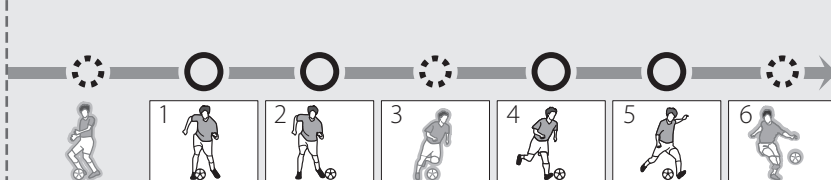
● レリーズ

ピント状態に関係なく、レリーズのタイミングを優先してシャッターをきるすることができます。連続撮影する場合にも連続撮影速度を維持します。



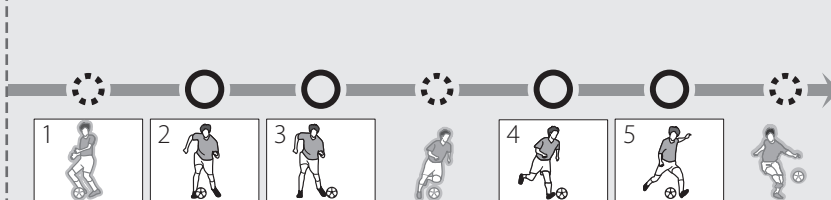
● フォーカス / レリーズ

1 コマ目はレリーズのタイミングが遅れることもあります。1 コマ目からピントの合った撮影が可能になります。連続撮影時には 2 コマ目以降からレリーズのタイミングを優先し、連続撮影速度を維持します。



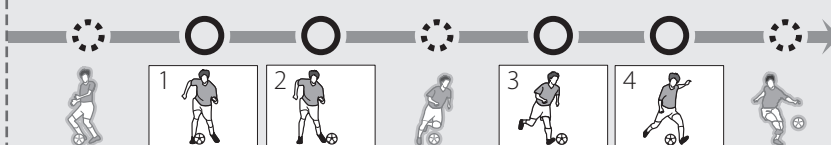
● レリーズ / フォーカス

1 コマ目はピント状態に関係なく、レリーズのタイミングを優先してシャッターをきるすることができます。2 コマ目以降はピントが合いにくい場合は撮影速度が低下することがありますが、ピント合わせを優先するためピントの合う割合が向上します。



● フォーカス

ピントの状態を優先するため、ピントが合うまでシャッターがきれませんが、ピントの合う割合が向上します。

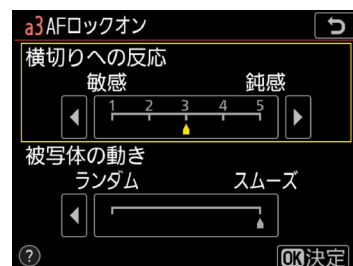


※この図はレリーズの正確なタイミングを表すものではありません。

スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a3 : AF ロックオン

「横切りへの反応」と「被写体の動き」の2種類の設定があります。



■ 横切りへの反応

AF モードを AF-C に設定している場合、ピント合わせをしている被写体が横切り被写体によってとらえることができなくても一定時間ピントの位置を維持します。被写体とカメラの間に障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止できます。追従するピント合わせの切り替えを開始するまでの時間が短い順に [1 (敏感)]、[2]、[3]、[4]、[5 (鈍感)] の5段階になります。

- 主要被写体のそばの物体には追従してピント合わせを行います。
- 鈍感側に設定すると、主要被写体との間に横切り被写体が横切っても、撮影対象の主要被写体にピントを合わせ続けます。敏感側に設定すると、撮影対象の主要被写体との間に横切り被写体が横切ったときに素早くピント合わせの対象を切り換えることができます。頻繁に被写体を切り換えたい場合に便利です。
- 「横切りへの反応」は AF 作動中に有効です。撮影中の被写体から距離の離れた別の被写体に瞬時に切り替えて撮影したい場合には、再度 AF をし直すことをおすすめします。



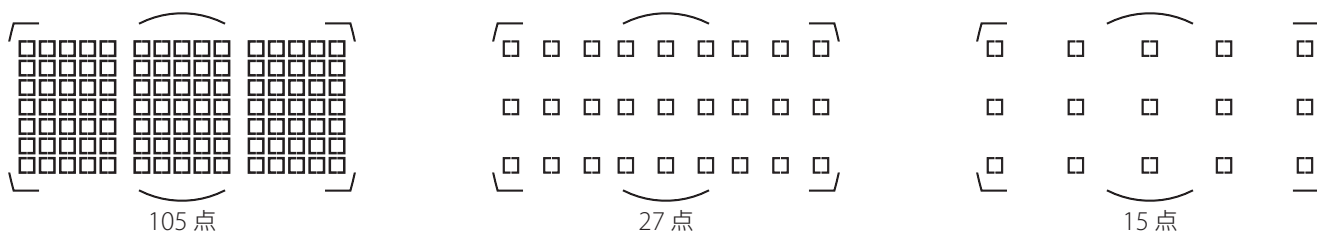
■ 被写体の動き

被写体がどのような動きをしているかを選択することによって、ピントの追従性を向上させます。

- スピードスケートやモータースポーツなど、一定の速さでカメラに向かってくる被写体を撮影する場合は「スムーズ」に設定してください。
- 走幅跳や三段跳など、カメラに向かってくる速度が急激に変化する被写体を撮影する場合は「ランダム」に設定してください。

a4 : AF 点数

ファインダー撮影時に AF エリアモードがオートエリア AF 以外の場合、選択可能なフォーカスポイントの数を [105 点]、[27 点]、[15 点] のいずれかに設定できます。

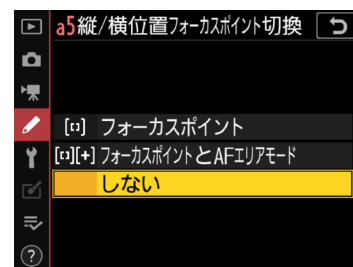


- [27 点] または [15 点] に設定すると、フォーカスポイントの位置を素早く動かします。
- AF エリアモードがグループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) の場合、設定しているフォーカスエリアの形状によって選べる範囲が異なります。

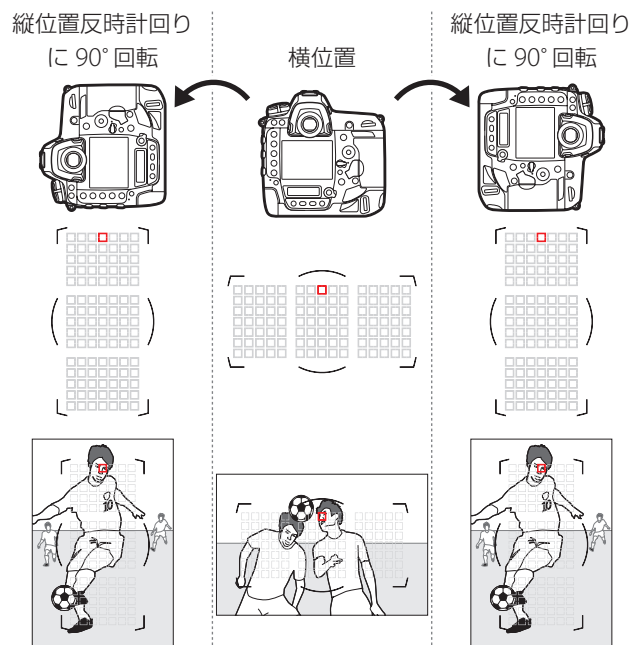
スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a5：縦／横位置フォーカスポイント切換

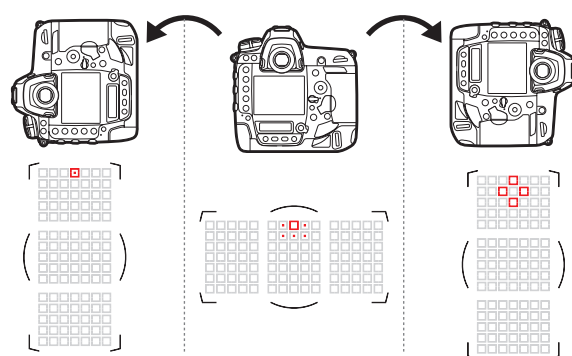
カメラの横位置と縦位置を切り換えたときに、選択したフォーカスポイントと AF エリアモードを姿勢ごとに保持できます。カメラの姿勢を変えてもフォーカスポイントを設定し直さなくてもよいため、撮影に専念できます。設定は「フォーカスポイント」、「フォーカスポイントと AF エリアモード」または「しない」から選べます。



- 「フォーカスポイント」に設定すると、横位置と時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置で個別にフォーカスポイントを保持できます。設定後、フォーカスポイントを移動すると、そのフォーカスポイントの位置が自動的に保持されます。一度「しない」に設定すると、フォーカスポイントはカメラの位置に関係なく中央にリセットされます。

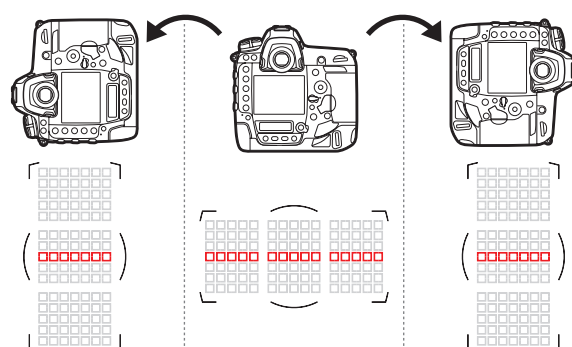


- 「フォーカスポイントと AF エリアモード」に設定した場合、フォーカスポイントに加えて AF エリアモードも個別に保持できます。設定後、フォーカスポイントを移動したり AF エリアモードを設定したりすると、そのフォーカスポイントの位置または AF エリアモードが自動的に保持されます。



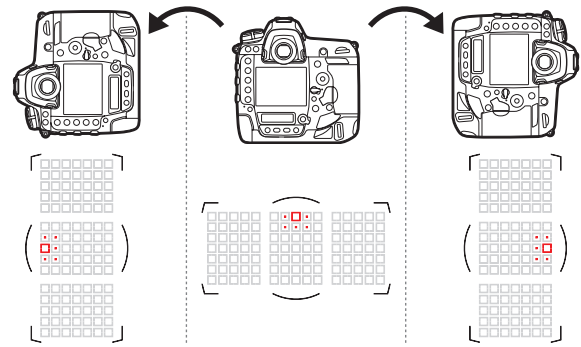
- 図の例では、カメラが横位置の場合はダイナミック AF (9 点)、縦位置反時計回りに 90° 回転した場合は 3D-トラッキング、縦位置時計回りに 90° 回転した場合はグループエリア AF になるように設定しています。

- 横位置時の AF エリアモードをグループエリア AF (C1)：(15 × 1) に設定して横一列にピン트가合うようにした場合、縦位置時の設定をグループエリア AF (C2)：(1 × 7) にすれば、カメラを回転しても横一列にピン트를合わせ続けられます。



スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

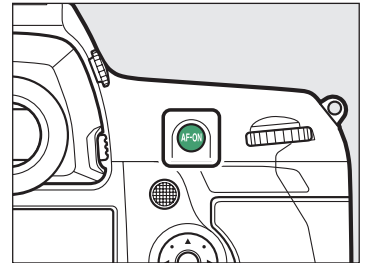
- [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントおよび AF エリアモードを使います。



a6：半押し AF レンズ駆動

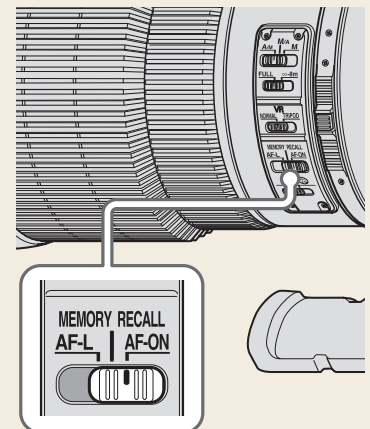
[しない] に設定すると、シャッターボタンを半押ししてもピント合わせの動作を行いません。リリースとピント合わせをそれぞれ独立して行うことができます。

- ピント合わせは **AF-ON** ボタンまたはカスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で [AF-ON] を割り当てたボタンで行い、リリースはシャッターボタンで行います。
- ピントを固定してシャッターをきりたいときや、被写体の手前に障害物が入り込んできたときなど、オートフォーカスの駆動を止めたい場合は **AF-ON** ボタンを放すことで AF ロック状態になります。
- [しない] を選んでマルチセクターの  を押すと、[非合焦時のリリース] を設定できます。スポーツ撮影時は [許可] に設定していることを確認してください。



レンズのフォーカス作動設定スイッチについて

フォーカス作動設定スイッチ [\(p.19\)](#) のある超望遠レンズを使用する場合にスイッチを **AF-ON** に合わせると、フォーカス作動ボタンをカメラの **AF-ON** ボタンと同様に使用することができます。



スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a7：シングルポイント AF の捕捉領域

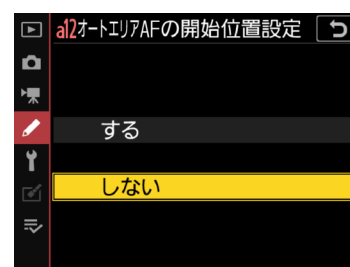
「広め」に設定すると、AF エリアモードがシングルポイント AF およびダイナミック AF の場合に、選択したフォーカスポイントから被写体が少し外れても、周辺の情報を使用して被写体をとらえます。被写体の動きが速い場合に便利です。



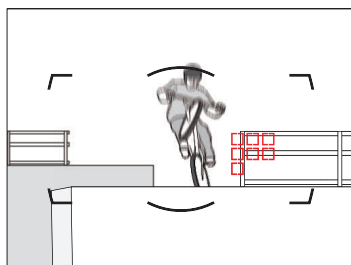
a12：オートエリア AF の開始位置設定

「する」に設定すると、AF モードが AF-C で AF エリアモードがオートエリア AF の場合に、ピント合わせを開始するフォーカスポイントを設定できるようになります。

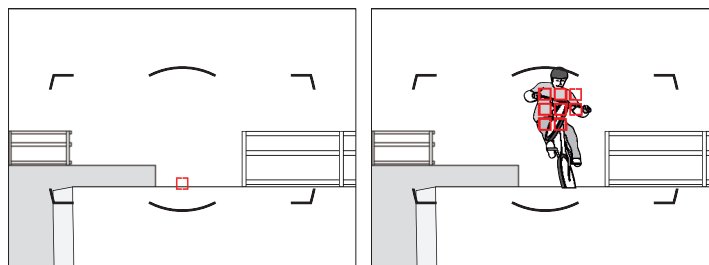
- 選んだフォーカスポイントで一度ピント合わせを行った後に、通常のオートエリア AF が動作します。



- 初期設定ではオートエリア AF はカメラに近い被写体を優先してピントを合わせます。このため BMX やスケートボードなどのようなスタート地点や撮影を開始する地点が固定されているスポーツをオートエリア AF で撮影する場合、フォーカスを合わせた時に意図しない被写体にピントが合うことがあります。スポーツ選手が現れる地点にあらかじめフォーカスポイントを移動させておけば、選んだフォーカスポイントで一度ピント合わせを行うため、狙った被写体にピントを合わせやすくなります。



「しない」の場合、手前の被写体にピントが合うため、想定した被写体にピントが合わないことがあります。



被写体が現れると想定される位置にフォーカスポイントを移動して「置きピン」しておくことで、その場所からピント合わせを開始するため狙った被写体にピントが合いやすくなります。

- 「オートエリア AF の開始位置設定」については、下記 URL の動画で詳しい使い方を紹介しています。

[YouTube | デジチューター / Digitutor - ニコンチュートリアルチャンネル](#)

D6 NSP [#2] オートエリア AF の開始位置設定を使って素早くピントを合わせる

スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a13：フォーカスポイントの引き継ぎ

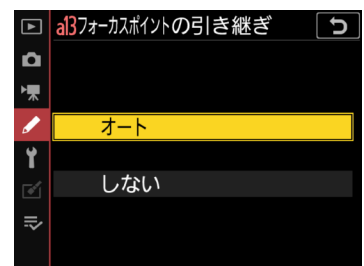
カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンに [AF エリアモード] または [AF エリアモード+AF-ON] を割り当てている場合はボタンを押している間だけ AF エリアモードが切り替わります。このとき、[フォーカスポイントの引き継ぎ] を [オート] に設定しておく、と、切り替え前に選ばれていたフォーカスポイントが引き継がれます。



■ [フォーカスポイントの引き継ぎ] の使用例

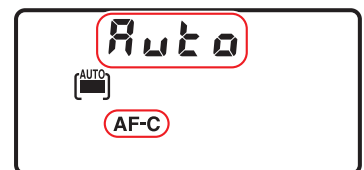
ここでは切り替え前の AF エリアモードをオートエリア AF に設定し、Fn1 ボタンを押している間はダイナミック AF (9 点) に切り替わるように設定します。

- 1 カスタムメニュー a13 [フォーカスポイントの引き継ぎ] を [オート] に設定する



- 2 通常使用する AF エリアモードを設定する

- ここでは [オートエリア AF] に設定しています。
- AF モードは **AF-C** に設定してください。



- 3 カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンに [AF エリアモード] または [AF エリアモード+AF-ON] を割り当てる

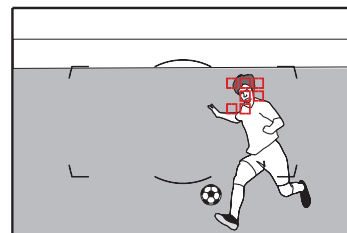
- ここでは **Fn1** ボタンに [AF エリアモード] を割り当てています。
- ボタンを押している間の AF エリアモードは [ダイナミック AF (9 点)] に設定します。



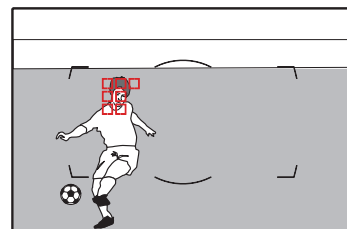
スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

4 シャッターボタンを半押しまたは **AF-ON** ボタンを押して被写体にピントを合わせる

- カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

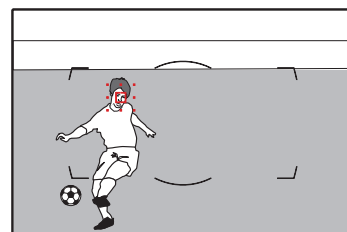


- シャッターボタンを半押しまたは **AF-ON** ボタンを押している間は、被写体を判別しながらフォーカスポイントが移動します。

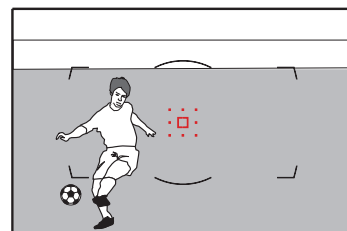


5 **Fn1** ボタンを押して AF エリアモードを切り替える

- カスタムメニュー a13 [フォーカスポイントの引き継ぎ] を [オート] に設定している場合、現在のフォーカスポイントの位置をキープしたままダイナミック AF (9 点) に切り替わります。



- [しない] に設定している場合は、**Fn1** ボタンを押して AF エリアモードを切り換えてもオートエリア AF で判別したフォーカスポイントの位置を引き継ぎません。

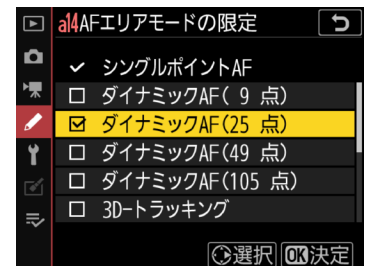


スポーツ撮影の AF に関するカスタムメニューについて

a14：AF エリアモードの限定

ファインダー撮影時の AF エリアモードを限定し、意図しない設定で撮影することを防ぎます。

- たとえば[ダイナミック AF (25 点)]と[グループエリア AF]に ☒ を入れると、シングルポイント AF、ダイナミック AF (25 点) またはグループエリア AF のみ選べるようになります。
- [シングルポイント] の ☒ は外せません。



a15：AF モードの制限

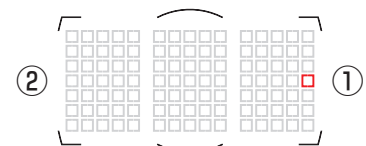
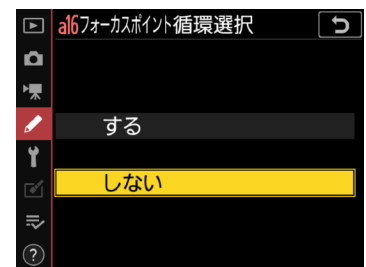
AF モードを制限できます。スポーツ撮影で **AF-C** だけを使用する場合、ここを [AF-C] に設定しておけば、誤操作で **AF-S** に設定変更してしまうことを防止できます。



a16：フォーカスポイント循環選択

フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。フォーカスポイントの位置を頻繁に大きく移動する場合に便利です。

- [する] を選んだ場合、たとえば右端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときにマルチセクターの  を押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



AF に便利なカスタムボタンの割り当てについて

カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] でカメラの **Pv** ボタンや **Fn** ボタンなどに任意の機能を割り当てられます。各ボタンに AF に関する機能を割り当てることもできます。

AF に関する機能を割り当てられるボタン

各ボタンに割り当てられるオートフォーカスに関する機能は次の通りです。

	Pv	Fn1	Fn2	Fn	Fn3	AF-ON	サブセクター	サブセクター中央	縦位置 AF-ON	縦位置マルチセクター	BKT	動画撮影	L-Fn
PRE [Ⓐ] プリセットフォーカスポイント	●	●	●	●	—	—	—	●	—	—	—	—	●
[□] AF エリアモード	●	●	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	●
[□] AF エリアモード +AF-ON	●	●	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	●
AF-ON AF-ON	●	●	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	●
AF AF-L	●	●	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	●
AE-L/AF-L	●	●	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	●
RESET フォーカスポイント中央リセット	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—
AF/[+] AF モード /AF エリアモード	●	●	●	●	—	—	—	—	—	—	—	●	—
= [⊕] マルチセクターと同じ	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—
[□] フォーカスポイント選択	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—

凡例： **Pv**：プレビューボタン、**Fn1**：Fn1 ボタン、**Fn2**：Fn2 ボタン、**Fn**：縦位置 Fn ボタン、**Fn3**：Fn3 ボタン、**AF-ON**：AF-ON ボタン、**サブセクター**：サブセクター、**サブセクター中央**：サブセクター中央、**縦位置 AF-ON**：縦位置 AF-ON ボタン、**縦位置マルチセクター**：縦位置マルチセクター、**測光モード**：測光モードボタン、**BKT**：BKT ボタン、**動画撮影**：動画撮影ボタン、**L-Fn**：レンズのフォーカス作動ボタン

ボタンに割り当てられる AF に関する機能

カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で各ボタンに割り当てられる機能のうち、オートフォーカスに関する機能は次の通りです。

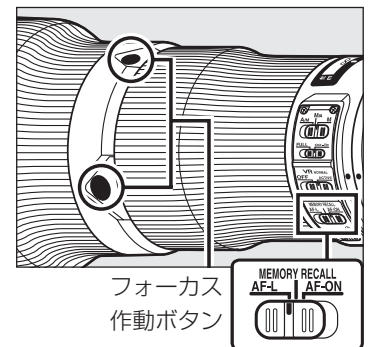
PRE [Ⓐ] プリセットフォーカスポイント	ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 ●プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまで AF モードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 ●a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切替] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 ●[プリセットフォーカスポイント] を選んでマルチセクターの [⊕] を押すと、割り当てたボタンを押したときの動作を設定できます。 －[AF ポイントを移動]：ボタンを押すと、プリセットフォーカスポイントに移動します。 －[押している間のみ移動]：ボタンを押している間のみプリセットフォーカスポイントが選ばれます。ボタンを放すと、元のフォーカスポイントの位置に戻ります。
[□] AF エリアモード	ボタンを押している間、設定した AF エリアモードに変更します。ボタンを放すと、元の AF エリアモードに戻ります。 ●[AF エリアモード] を選んで [⊕] を押すと、AF エリアモードを選べます。
[□] AF エリアモード +AF-ON	ボタンを押している間、設定した AF エリアモードに変更され、ピント合わせも行います。ボタンを放すと、元の AF エリアモードに戻ります。 ●[AF エリアモード +AF-ON] を選んで [⊕] を押すと、AF エリアモードを選べます。
AF-ON AF-ON	ボタンを押すと、AF-ON ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

AF に便利なカスタムボタンの割り当てについて

 AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
RESET フォーカスポイント中央リセット	ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
AF/AF-ON AF モード / AF エリアモード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと AF モード、サブコマンドダイヤルを回すと AF エリアモードの設定を変更できます。
= マルチセレクターと同じ	サブセレクターまたは縦位置マルチセレクターを上下左右に倒したときはマルチセレクターの  と同じ機能になります。 ● サブセレクターに割り当てた場合、画像を拡大表示したときのサブセレクターの動作を [拡大位置移動] または [コマ送り] に設定できます。 ● 縦位置マルチセレクターに割り当てた場合、[上下左右機能入れ換え] で再生時の機能を設定できます。[する] を選んだ場合、上下に倒すと表示画像を、左右に倒すと画像情報のページを切り換えられるようになります。 ● 縦位置マルチセレクターに割り当てた場合、中央ボタンを押したときの機能はマルチセレクターの中央ボタンを押したときと同じです。
[] フォーカスポイント選択	サブセレクターまたは縦位置マルチセレクターを上下左右に倒すとフォーカスポイントを選べます。 ● 縦位置マルチセレクターに割り当てた場合、中央ボタンを押したときの機能は [サブセレクター中央] と同じです。

レンズのフォーカス作動ボタンについて

[ レンズのフォーカス作動ボタン] には、フォーカス作動設定スイッチが AF-L に設定されている場合に、レンズのフォーカス作動ボタンを押したときの機能を設定できます。たとえば、フォーカス作動ボタンに **[AF エリアモード]** を割り当てることで、フォーカス作動ボタンを押している間は設定した AF エリアモードに変更できます。



フォーカス作動設定スイッチのあるレンズについて

フォーカス作動設定スイッチのあるレンズは次のとおりです（2020 年 3 月現在）。

- AF-S NIKKOR 800mm f/5.6E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR
- AF-S NIKKOR 120-300mm f/2.8E FL ED SR VR
- AF-S NIKKOR 180-400mm f/4E TC1.4 FL ED VR
- AF-S NIKKOR 200-400mm f/4G ED VR II

AF 微調節の設定について

カメラに装着した CPU レンズのピント位置を、好みなどに合わせて微調節できます。

- 手動で微調整値を登録して設定する方法と、ライブビューを使用して自動で設定する方法があります。
- ズームレンズを装着している場合、広角側 (WIDE) と望遠側 (TELE) で個別に調整値を登録できます。

⚠ AF 微調節について

- 必要な場合のみ行ってください。
- AF 微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離で AF 微調節を行った場合、遠い被写体に対しては AF 微調節の効果が低下することがあります。
- 設定した微調整値は、ファインダー撮影時のみ有効です。ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、設定した微調整値は適用されません。

手動で微調節値を登録する

セットアップメニュー [AF 微調節の設定] の [レンズの調節と登録] で登録できます。

- すでに登録してあるレンズを装着している場合、微調整値が上書きされます。

- 1 セットアップメニューの [AF 微調節の設定] で [レンズの調節と登録] を選んで  を押す

- AF 微調節の設定画面が表示されます。設定画面はズームレンズを装着した場合と単焦点レンズを装着した場合で異なります。



ズームレンズの場合



単焦点レンズの場合

- 2   を押して微調整値を変更する

- +20 ~ -20 の範囲で調節できます。
- 今回の微調整値は ▲ で、前回設定した微調整値は △ で表示されます。
- ズームレンズを装着している場合は、広角側 (WIDE) と望遠側 (TELE) で個別に調節できます。広角側と望遠側を切り換えるには  を押します。
- ピントの合う位置は、微調整値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調整値が小さいほどカメラに近づきます。
- この画面で  (⚡) ボタンを押すと、「[自動で微調整値を登録する](#)」 ([21](#)) の手順 2 の画面に移動してライブビューを使用した自動設定を行うこともできます。



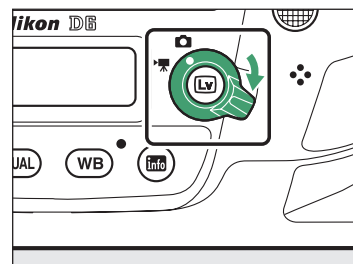
- 3  ボタンを押して設定を登録する

- 登録した AF 微調整値を使用して撮影する場合は、セットアップメニュー [AF 微調節の設定] の [AF 微調節の適用] を [する] に設定してください。

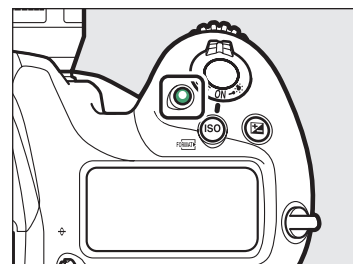
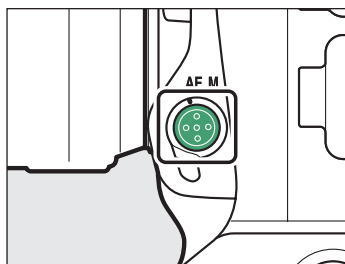
自動で微調節値を登録する

ライブビューを使用して自動で微調整値を登録できます。

- 1 ライブビューセクターを  に合わせて  ボタンを押す



- 2 AF モードボタンと動画撮影ボタンを 2 秒以上同時に押す



ズームレンズの場合

- ズームレンズの場合広角側と望遠側を個別に設定するためのメニューが表示されます。
- [WIDE]（広角側）または[TELE]（望遠側）を選んで  ボタンを押すと、AF 微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。



単焦点レンズの場合

- AF 微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。



⚡ AF 微調節設定済みのレンズを装着している場合

すでに AF 微調整をしてあるレンズを装着している場合、値を上書きするか新規で登録するかを選べます。

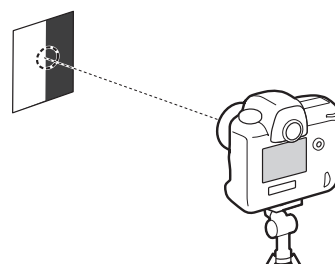
AF 微調節の設定について

3 シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行う

- ズームレンズの場合は、あらかじめレンズのズームリングを回してワイド端またはテレ端に合わせてから、ピント合わせを行ってください。



- ピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、コントラストの高い平面を被写体として選んでください。



- 絞りを開放にすることをおすすめします。
- ピント合わせの後に拡大表示をしてピントが正確に合っているか確認してください。必要に応じてマニュアルフォーカスでお好みのピント位置に調節してください。
- 暗い環境では、ライブビューでのオートフォーカスや、AF 微調節の自動設定ができない場合があります。

4 OK ボタンを押す

- AF 微調節の自動設定が実行され、装着している CPU レンズの微調節値が [登録済みレンズリスト] に登録されます。
- 自動設定が成功すると、[AF 微調節の適用] が [する] に変更され、AF 微調節が有効になります。



ズームレンズの場合

- 広角側と望遠側のどちらかの設定終了後、もう一方の設定をする場合は Q ボタンを押して [WIDE] または [TELE] を選びます。手順 3～4 と同じ手順で自動設定を行ってください。



5 OK ボタンを押して設定を終了する

登録したレンズを管理する

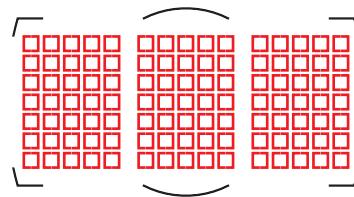
登録したレンズは、セットアップメニュー [AF 微調節の設定] の [登録済みレンズリスト] で管理できます。

- 最大 40 種類のレンズを登録できます。
- レンズを選んで、 (FORMAT) ボタンを押すと、登録したレンズを削除できます。
- 登録リストからレンズを選んで  を押すと、[識別番号] 画面が表示されます。
 - [識別番号] 画面では、レンズの識別番号を入力できます。たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号などを設定しておくと、どのレンズの AF 微調節の設定かを識別できるので便利です。
 - 登録するレンズによっては、シリアル番号が識別番号として自動的に入力されます。



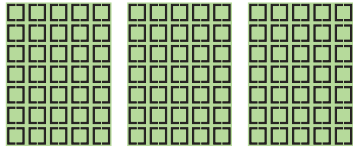
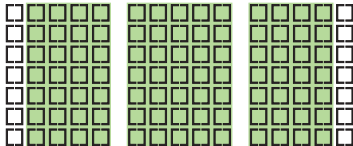
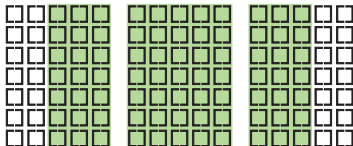
フォーカスポイントのヒント

ファインダー撮影時、最大 105 点のフォーカスポイントを使用してフォーカスを合わせます。装着しているレンズやテレコンバーターによって、使用可能なクロスセンサーの数やフォーカスポイントの位置が異なります。



装着レンズ別クロスセンサーの点数

装着しているレンズにより、クロスセンサーを使用できるフォーカスポイントが異なります。緑のエリア内にあるフォーカスポイントがクロスセンサーを使用し、それ以外のポイントはラインセンサーで横線を検出します。

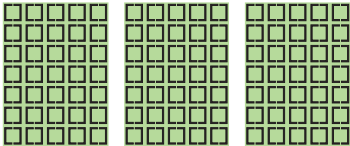
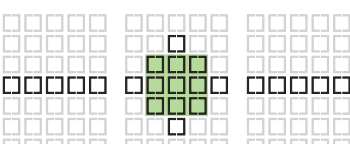
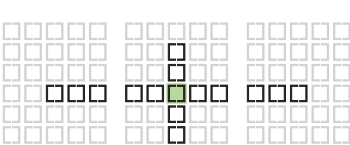
装着するレンズ	クロスセンサー
下記のレンズを除く開放絞り値*が F4 以上明るい AF-S/AF-P レンズ	 クロスセンサー 105 点
● AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED ● AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR ● AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR ● AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR ● AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED II ● AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED	 クロスセンサー 91 点
● AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR ● AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED II ● AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED	 クロスセンサー 77 点
● AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II ● AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED ● 開放絞り値*が F4 より暗い AF-S/AF-P レンズ ● AF-S/AF-P レンズを除くその他のレンズ	 クロスセンサー 35 点

※ ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

AF-S/AF-I テレコンバーター使用時のフォーカスポイント

AF-S/AF-I テレコンバーターを装着してファインダー撮影を行う場合、使用するレンズの開放絞りの値によってオートフォーカスおよびフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントが異なります。

- 緑のエリア内にあるフォーカスポイントはクロスセンサーを使用し、それ以外のポイントはラインセンサーで横線を検出します。
- 合成絞り値が F5.6 より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります。
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED をお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

使用するテレコンバーター	装着するレンズの開放絞り値※	使用可能なフォーカスポイント
● TC-14E/TC-14E II/TC-14E III ● TC-17E II ● TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2	
● TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F2.8	● 105 点 ● クロスセンサー 105 点
● TC-17E II ● TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2.8	
● TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F4	● 105 点 ● クロスセンサー 35 点
● TC-17E II	F4	
● TC-800-1.25E ED	F5.6	● 23 点 ● クロスセンサー 9 点
● TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F4	
● TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F5.6	● 15 点 ● クロスセンサー 1 点

※ ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

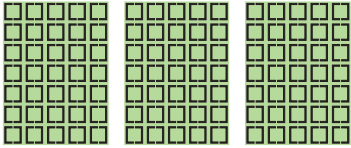
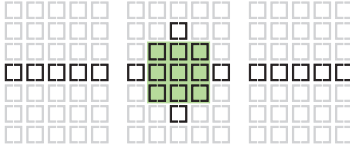
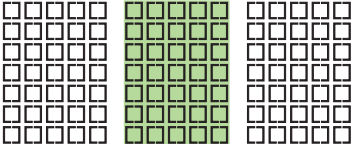
フォーカスポイントのヒント

レンズとテレコンバーターの組み合わせによるオートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイント

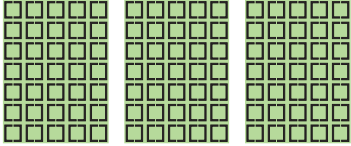
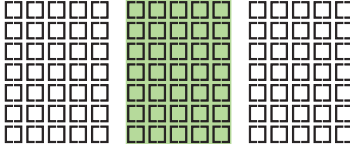
使用するレンズとテレコンバーターとの組み合わせによってもオートフォーカスおよびフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントが異なります。

■ AF-S NIKKOR 300mm f/4E PF ED VR、

AF-S NIKKOR 180-400mm f/4E TC1.4 FL ED VR (内蔵テレコンバーター不使用時)

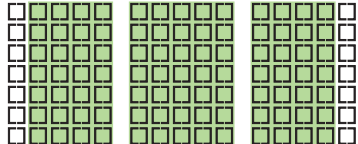
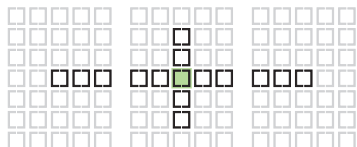
使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント	使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント
● レンズ単体	 ● 105 点 ● クロスセンサー 105 点	● TC-17E II	 ● 23 点 ● クロスセンサー 9 点
● TC-14E/ TC-14E II/ TC-14E III	 ● 105 点 ● クロスセンサー 35 点	● TC-20E/ TC-20E II/ TC-20E III	 ● 15 点 ● クロスセンサー 1 点

■ AF-S NIKKOR 400mm f/2.8E FL ED VR、AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II、 AF-S NIKKOR 120-300mm f/2.8E FL ED SR VR

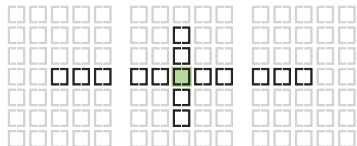
使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント	使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント
● レンズ単体 ● TC-14E/ TC-14E II/ TC-14E III	 ● 105 点 ● クロスセンサー 105 点	● TC-17E II/ ● TC-20E/ TC-20E II/ TC-20E III	 ● 105 点 ● クロスセンサー 35 点

フォーカスポイントのヒント

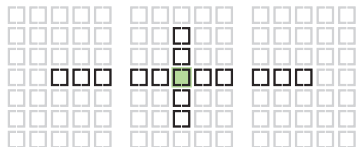
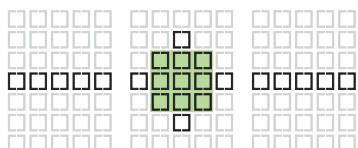
■ AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR、AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR

使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント	使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント
● レンズ単体	 ● 105 点 ● クロスセンサー 91 点	● TC-17E II	 ● 23 点 ● クロスセンサー 9 点
● TC-14E/ TC-14E II/ TC-14E III	 ● 105 点 ● クロスセンサー 35 点	● TC-20E/ TC-20E II/ TC-20E III	 ● 15 点 ● クロスセンサー 1 点

■ AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR、AF-S NIKKOR 80–400mm f/4.5–5.6G ED VR、 AF-S NIKKOR 180–400mm f/4E TC1.4 FL ED VR (内蔵テレコンバーター使用時)、 AF-S NIKKOR 200–500mm f/5.6E ED VR

使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント	使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント
● レンズ単体	 ● 105 点 ● クロスセンサー 35 点	● TC-14E/ TC-14E II/ TC-14E III	 ● 15 点 ● クロスセンサー 1 点

■ AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント	使用する テレコンバーター	使用可能なフォーカスポイント
● レンズ単体 ● TC-14E/ TC-14E II/ TC-14E III	 ● 105 点 ● クロスセンサー 35 点	● TC-20E/ TC-20E II/ TC-20E III	 ● 15 点 ● クロスセンサー 1 点
● TC-17E II	 ● 23 点 ● クロスセンサー 9 点		

撮影競技別の推奨設定

撮影シーン別 AF に関する推奨設定一覧

撮影シーン別の AF に関する推奨設定は次の通りです。

- AF モードはすべての競技で AF-C をおすすめします。
- カスタムメニュー a1 [AF-C モード時の優先] はすべての競技で [リリース] をおすすめします。
- 設定した AF エリアモードに合わせて、a8 [3D- トラッキング時の顔認識]、a9 [グループエリア AF 時の顔認識]、a11 [オートエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定することをおすすめします。

撮影競技		AF エリアモード	カスタムメニュー					
			a3		a5	a7	a12	
			横切りへの 反応	被写体の 動き				
サッカー (㊦29)		ダイナミック AF (9 点)	2	スムーズ	フォーカスポイント	標準	—	
体操	ゆか、新体操 (㊦30)	オートエリア AF	3	スムーズ	—	—	—	
	平均台 (㊦31)	グループエリア AF (C1) : 15 × 3 (横位置)、 グループエリア AF (C2) : 7 × 7 (縦位置)		フォーカスポイントと AF エリアモード				
	跳馬 (㊦31)	オートエリア AF		ランダム	—			する
	つり輪、鉄棒、段違い平行棒 (㊦31)	3D- トラッキング		スムーズ				—
陸上競技	短距離走 (特定走者を正面から手持ち撮影) (㊦32)	ダイナミック AF (9 点)	3	スムーズ	フォーカスポイント	広め	—	
	ハードル走 (㊦33)				標準			
	短距離走、ハードル走 (複数走者を正面からリモートカメラ撮影) (㊦33)	グループエリア AF (C1) : 15 × 3		—	—			
	マラソン (乗り物から撮影) (㊦34)	ダイナミック AF (9 点)			フォーカスポイント	標準		
	砲丸投、円盤投、ハンマー投 (遠方正面から撮影) (㊦34)	グループエリア AF	5	スムーズ	—	—		
	やり投 (遠方正面から撮影) (㊦34)	グループエリア AF (C1) : 7 × 7	3	ランダム				
	走幅跳、三段跳 (正面から撮影) (㊦35)	オートエリア AF						
	走高跳 (㊦35)	グループエリア AF (C1) : 3 × 5						
	棒高跳 (㊦35)	オートエリア AF						
	水泳	競泳 (㊦36)	ダイナミック AF (9 点)	2				スムーズ
飛込 (㊦37)		3D- トラッキング	3	—				
アーティスティックスイミング (㊦37)		ダイナミック AF (9 点)		標準				
卓球 (㊦38)		グループエリア AF (C1) : 3 × 7	4	スムーズ	—	—	—	
BMX・スケートボード (㊦38)		オートエリア AF	3	スムーズ	フォーカスポイント	—	する	

カスタムメニュー：a3 [AF ロックオン] ([□11](#))、a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切替] ([□12](#))、a7 [シングルポイント AF の捕捉領域] ([□14](#))、a12 [オートエリア AF の開始位置設定] ([□14](#))

サッカー

AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[2]
	被写体の動き	[スムーズ]
a5： 縦 / 横位置フォーカスポイント切換		[フォーカスポイント]
a7： シングルポイント AF の捕捉領域		[標準]

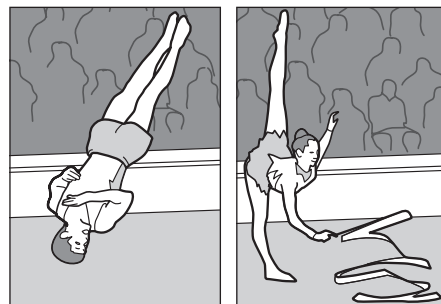


- サッカーでは被写体の手前を別の被写体が横切ったり、頻繁に主要被写体を遠くと近くで切り換えるなどさまざまなケースが発生しますが、上記の設定で幅広いケースに対応できます。
- 多くの選手が密集する中で特定の選手だけを狙いたい場合は、ダイナミック AF (9 点) をおすすめします。
- a7 [シングルポイント AF の捕捉領域] はダイナミック AF の場合も有効です。[広め] に設定しておく、選択したフォーカスポイントから被写体が少し外れても被写体をとらえるため、動きが速い被写体にもピントが合いやすくなります ([図 14](#))。

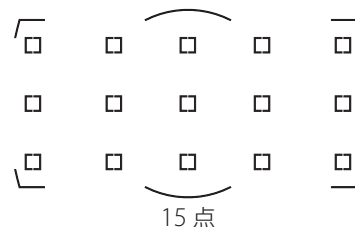
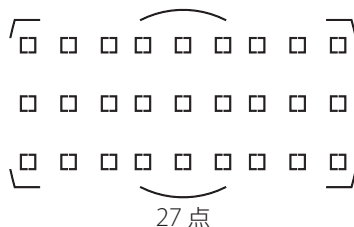
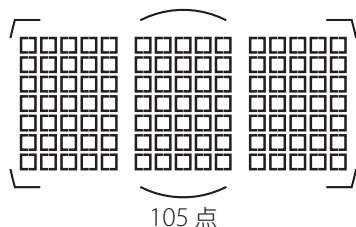
体操

■ ゆか、新体操

AF モード		AF-C
AF エリアモード		オートエリア AF
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a11 : オートエリア AF 時の顔認識		[する]

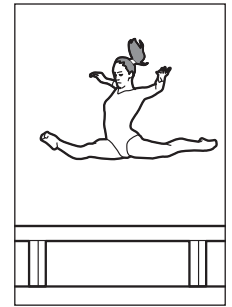


- 構図を優先して撮影したい場合はオートエリア AF をおすすめします。
- オートエリア AF に設定している場合、細かく規則的に並んだパターンがある場合、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。このような場合はダイナミック AF（49 点）をおすすめします。
- ダイナミック AF に設定している場合、被写体の動きが激しく被写体をとらえ続けにくいシーンでは、ダイナミック AF のフォーカスポイントの数を増やすか、被写体を面としてとらえることができるグループエリア AF に設定してください。
- カメラの縦位置と横位置を瞬時に切り換えて撮影する場合は、あらかじめ a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] で [フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定し、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でそれぞれのフォーカスポイントの位置や AF エリアモードを設定しておくとう便利です [\(12\)](#)。
- フォーカスポイントの位置を頻繁に変える場合は、a4 [AF 点数] で [15 点] に設定しておくとう便利です。フォーカスポイントの数が少なくなるため、フォーカスポイント間をすばやく移動することができます [\(11\)](#)。



■ 平均台

AF モード	AF-C
AF エリアモード	グループエリア AF (C1) : 15 × 3 (横位置)、 グループエリア AF (C2) : 7 × 7 (縦位置)
カスタムメニュー	
a1 : AF-C モード時の優先	[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応 [3]
	被写体の動き [スムーズ]
a5 : 縦 / 横位置フォーカスポイント切換	[フォーカスポイントと AF エリアモード]
a9 : グループエリア AF 時の顔認識	[する]



- カメラの縦位置と横位置を瞬時に切り換えて撮影する場合は、あらかじめ a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] で [フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定し、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でそれぞれのフォーカスポイントの位置や AF エリアモードを設定しておくくと便利です (図12)。
- 横位置のときはグループエリア AF (C1) で 15 × 3 に設定し、縦位置のときはグループエリア AF (C2) で 7 × 7 に設定しておくくと、幅広いケースに対応できます。

■ 跳馬

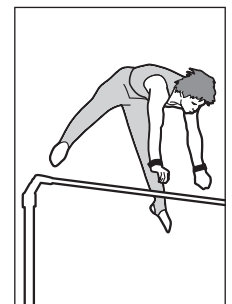
AF モード	AF-C
AF エリアモード	オートエリア AF
カスタムメニュー	
a1 : AF-C モード時の優先	[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応 [3]
	被写体の動き [ランダム]
a11 : オートエリア AF 時の顔認識	[する]
a12 : オートエリア AF の開始位置設定	[する]



- オートエリア AF を使用すると、カメラが自動的にフォーカスポイントを選択してピントを合わせるため、構図に集中して撮影できます。
- オートエリア AF を使用していて跳馬台にピントが合ってしまう場合は、a12 [オートエリア AF の開始位置設定] を [する] に設定して、あらかじめ跳馬台の上にフォーカスポイントを移動しておくことをおすすめします (図14)。
- 跳馬台にピントが合った後に選手にピントが移動しない場合は、a3 [AF ロックオン] の [横切りへの反応] を敏感側に設定してください。

■ つり輪、鉄棒、段違い平行棒

AF モード	AF-C
AF エリアモード	3D-トラッキング
カスタムメニュー	
a1 : AF-C モード時の優先	[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応 [3]
	被写体の動き [ランダム]
a8 : 3D-トラッキング時の顔認識	[する]



被写体の姿勢の変化が大きく、近くに競技器具がある場合は、3D-トラッキングの使用をおすすめします。

撮影競技別の推奨設定

陸上競技

■ 短距離走（特定走者を正面から手持ち撮影）

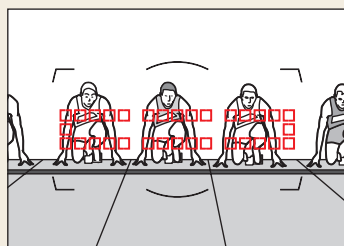
AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a5： 縦 / 横位置フォーカスポイント切換		[フォーカスポイント]
a7： シングルポイント AF の捕捉領域		[広め]



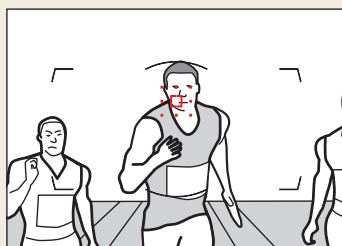
- 近づいてきた選手を撮影するときに、選手の手にピントが合うことを避けるには、ダイナミック AF (9 点) がおすすめです。
- カメラを横位置で撮影する場合、グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) で AF エリアを 15×3 のような横長の形状に設定すると、横一線に並んだ選手の中で、最も手前の選手にピントを合わせます。ただし、スタート地点の選手の背景に細かく規則的に並んだパターンがある場合、ピントが合っていないでもピント表示 (●) が点灯することがあります。このような場合はダイナミック AF で撮影することをおすすめします。
- ゴール後にカメラの縦位置と横位置を瞬時に切り換えて撮影する場合は、あらかじめ a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] で [フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定し、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でそれぞれのフォーカスポイントの位置や AF エリアモードを設定しておくくと便利です。

🔧 レンズのフォーカス作動ボタンに [AF エリアモード] を割り当てる場合の使用例

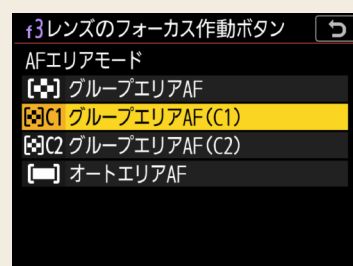
- f3 [カスタムボタンの機能] の [🔧 レンズのフォーカス作動ボタン] の [AF エリアモード] で [グループエリア AF (C1)] を割り当てておくと、スタートの瞬間だけレンズのフォーカス作動ボタンを押してグループエリア AF (C1) に切り換えて撮影し、選手が走っているときはダイナミック AF (9 点) で撮影するというような使い方ができます。ファインダーから目を離さず瞬時に切り換えることができるため便利です (🔗19)。



グループエリア AF (C1)
(遠くにいる被写体を撮影する)



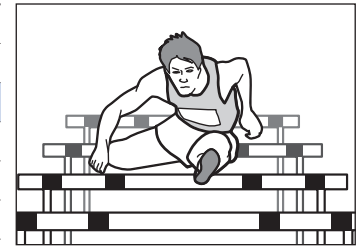
ダイナミック AF (9 点)
(近づいてきた被写体を撮影する)



- AF エリアモードは、Pv ボタン、Fn1 ボタン、Fn2 ボタン、AF-ON ボタン、サブセクター中央、縦位置 AF-ON ボタンにも割り当てられます (🔗18)。

■ ハードル走

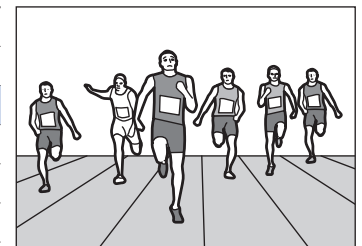
AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a5： 縦 / 横位置フォーカスポイント切換		[フォーカスポイント]
a7： シングルポイント AF の捕捉領域		[標準]



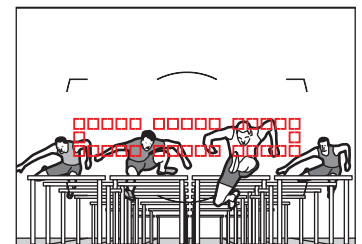
- 選手の手前にあるハードルにピントが合ってしまった場合は、主要な被写体に AF し直すことで瞬時にピントを戻すことができます。
- ゴール後にカメラの縦位置と横位置を瞬時に切り換えて撮影する場合は、あらかじめ a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] で [フォーカスポイントと AF エリアモード] に設定し、横位置、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置でそれぞれのフォーカスポイントの位置や AF エリアモードを設定しておくくと便利です。

■ 短距離走、ハードル走（複数走者を正面からリモートカメラ撮影）

AF モード		AF-C
AF エリアモード		グループエリア AF (C1) : 15 × 3
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a9 : グループエリア AF 時の顔認識		[する]



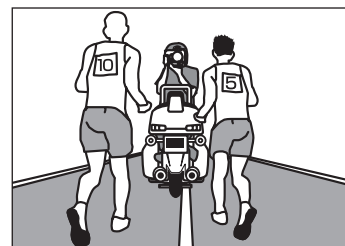
- 短距離走やハードル走でリモート撮影を行う場合、グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) で AF エリアを 15 × 3 のような横長の形状に設定すると、横一線に並んだ選手の中で最も手前の選手にピントを合わせることができます。
- ハードル走の場合は、ハードルを避けた位置にフォーカスポイントを合わせてください。



撮影競技別の推奨設定

■ マラソン（乗り物から撮影）

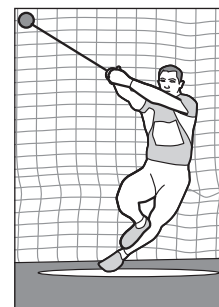
AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a5： 縦 / 横位置フォーカスポイント切換		[フォーカスポイント]
a7： シングルポイント AF の捕捉領域		[標準]



- 乗り物の上から集団の中の特定選手を撮影する場合は、ダイナミック AF (9 点) がおすすめです。
- フォーカスポイントをうまく被写体に合わせられない場合はオートエリア AF がおすすめです。
- レンズの VR モードに **[SPORT]** がある場合は **[SPORT]** に、**[ACTIVE]** がある場合は **[ACTIVE]** に手ブレ補正スイッチをセットすると、ブレを軽減することができます。

■ 砲丸投、円盤投、ハンマー投（遠方正面から撮影）

AF モード		AF-C
AF エリアモード		グループエリア AF
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[5]
	被写体の動き	[スムーズ]
a9： グループエリア AF 時の顔認識		[する]



遠くにいる被写体を撮影する場合は、グループエリア AF を使用すると AF の安定性が向上します。

■ やり投（遠方正面から撮影）

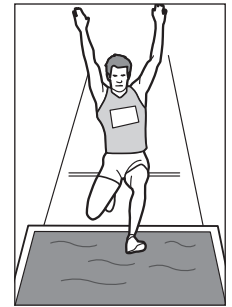
AF モード		AF-C
AF エリアモード		グループエリア AF (C1) : 7 × 7
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[ランダム]
a9 : グループエリア AF 時の顔認識		[する]



グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) を使用して、被写体の上半身をカバーする程度の大きさでフォーカスポイントの形状を設定することをおすすめします。顔にピントが合いやすくなり、手先などにピントが合ってしまうことを防げます。

■ 走幅跳、三段跳（正面から撮影）

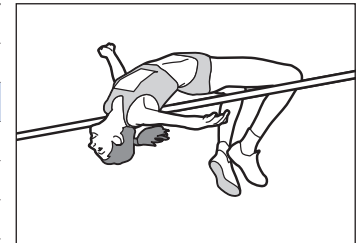
AF モード		AF-C
AF エリアモード		オートエリア AF
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[ランダム]
a11： オートエリア AF 時の顔認識		[する]



- 姿勢の変化が大きい競技の場合はオートエリア AF がおすすめです。a11 [オートエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定することで顔にピントが合いやすくなります。
- 被写体が急減速する場合は、a3 [AF ロックオン] の [被写体の動き] を [ランダム] に設定することをおすすめします。

■ 走高跳

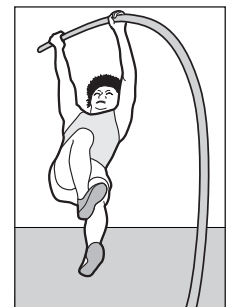
AF モード		AF-C
AF エリアモード		グループエリア AF (C1) : 3 × 5
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[ランダム]
a9 : グループエリア AF 時の顔認識		[する]



グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) を使用して、被写体の上半身をカバーする程度の大きさでフォーカスポイントの形状を設定することをおすすめします。姿勢の変化の大きい場合でも顔にピントが合いやすくなります。

■ 棒高跳

AF モード		AF-C
AF エリアモード		オートエリア AF
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[ランダム]
a11 : オートエリア AF 時の顔認識		[する]



- 姿勢の変化が大きい競技の場合はオートエリア AF がおすすめです。a11 [オートエリア AF 時の顔認識] を [する] に設定することで顔にピントが合いやすくなり、手前のマットやポールにピントが合うことも少なくなります。
- 被写体が急減速する場合は、a3 [AF ロックオン] の [被写体の動き] を [ランダム] に設定することをおすすめします。

撮影競技別の推奨設定

水泳

■ 競泳

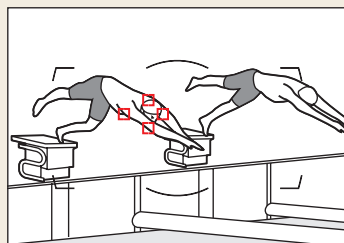
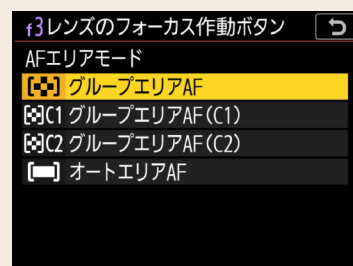
AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[2]
	被写体の動き	[スムーズ]
a7 : シングルポイント AF の捕捉領域		[標準]



- 泳いでいる選手を撮影する場合は、水しぶきにピントが合うことをなるべく避けるためダイナミック AF (9 点) がおすすめです。
- 水しぶきにピントが合ってしまった場合は、主要な被写体に AF し直すことで瞬時にピントを戻すことができます。a3 [AF ロックオン] の [横切りへの反応] を敏感側に設定すると、素早くピント合わせの対象を切り換えることができます。

⚡ レンズのフォーカス作動ボタンに [AF エリアモード] を割り当てる場合の使用例

- f3 [カスタムボタンの機能] の [f3 レンズのフォーカス作動ボタン] の [AF エリアモード] で [グループエリア AF] を割り当てておくと、選手が飛び込む瞬間だけレンズのフォーカス作動ボタンを押してグループエリア AF に切り換えて撮影し、選手が泳いでいるときはダイナミック AF (9 点) で撮影するというような使い方ができます。ファインダーから目を離さず瞬時に切り換えることができるため便利です (19)。



グループエリア AF
(飛び込む瞬間を撮影する)

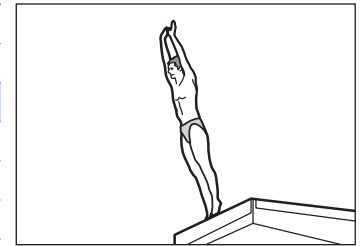


ダイナミック AF (9 点)
(泳いでいる選手を撮影する)

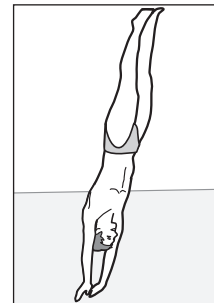
- AF エリアモードは、Pv ボタン、Fn1 ボタン、Fn2 ボタン、AF-ON ボタン、サブセレクター中央、縦位置 AF-ON ボタンにも割り当てられます (18)。

■ 飛込

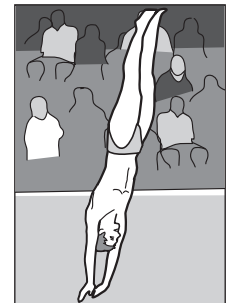
AF モード		AF-C
AF エリアモード		3D- トラッキング
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a8： 3D- トラッキング時の顔認識		[する]



- 飛込のようにフレーミングが難しい被写体に対しては、3D- トラッキングを使用することで、構図に集中して撮影できます。
- 3D- トラッキングを使用する場合は、飛び込む前の選手にピントを合わせてください。色やパターンに特徴のあるユニフォームに合わせるとより効果的です。**AF-ON** ボタンを押し続けるか、シャッターボタンを半押しし続けると、選手の動きに合わせてフォーカスポイントが自動的に移動します。
- 観客席や看板があり、被写体の背景が単調ではないシーンでは、3D- トラッキングが効果的に動かないことがあります。その場合は、ダイナミック AF (105 点) がおすすめです。



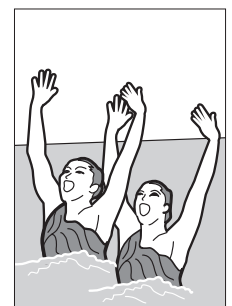
背景が単調な
シーン



背景が単調ではない
シーン

■ アーティスティックスイミング

AF モード		AF-C
AF エリアモード		ダイナミック AF (9 点)
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a7 : シングルポイント AF の捕捉領域		[標準]

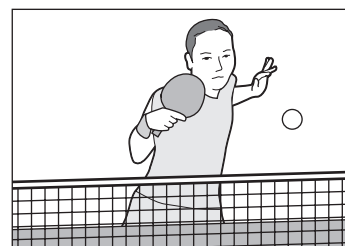


被写体の形が目まぐるしく変わったり、複数の選手や特定の選手を代わる代わる撮影するようなケースの多いアーティスティックスイミングは、汎用性の高いダイナミック AF (9 点) をおすすめします。

撮影競技別の推奨設定

卓球

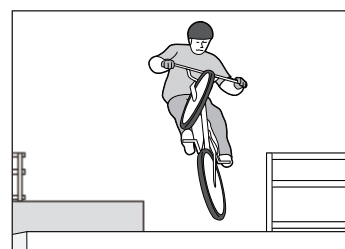
AF モード		AF-C
AF エリアモード		グループエリア AF (C1) : 3 × 7
カスタムメニュー		
a1 : AF-C モード時の優先		[リリース]
a3 : AF ロックオン	横切りへの反応	[4]
	被写体の動き	[スムーズ]
a9 : グループエリア AF 時の顔認識		[する]



ネットの奥にいる選手を撮影する場合でも、グループエリア AF (C1) またはグループエリア AF (C2) を使用するとネットを避けた構図を作りやすくなります。

BMX・スケートボード

AF モード		AF-C
AF エリアモード		オートエリア AF
カスタムメニュー		
a1： AF-C モード時の優先		[リリース]
a3： AF ロックオン	横切りへの反応	[3]
	被写体の動き	[スムーズ]
a5： 縦 / 横位置フォーカスポイント切換		[フォーカスポイント]
a11： オートエリア AF 時の顔認識		[する]
a12： オートエリア AF の開始位置設定		[する]



- オートエリア AF を使用すると、カメラが自動的にフォーカスポイントを選択してピントを合わせるため、構図に集中して撮影できます。
- オートエリア AF を使用していて手前のジャンプ台などにピントが合ってしまう場合は、a12 [オートエリア AF の開始位置設定] を [する] に設定して、あらかじめ被写体が飛び出してくると思われるあたりにフォーカスポイントを移動して「置きピン」しておくとう便利です (14)。

